

## 大尾神社: 関連年表(東大寺建立～大尾社へ遷座～道鏡事件～小椋社への遷座)

※月日の日付は和暦表示

和暦	西暦	月日	出典	内容
天平17年	745	9月17日	続日本記	聖武天皇、難波京で重篤に。 19日に京師・畿内の諸寺・諸社にて奉幣、及び祈祷。 20日に阿倍朝臣虫麻呂が宇佐宮へ幣帛を奉る。後、回復。
天平19年	747	—	御託宣集	八幡大神が神託「求むる所の黄金は、将にこの土より出づべし」。
天平20年	748	8月17日	続日本紀	大神宅女と大神社女に従八位上から外従五位下を昇叙。
天平21年 天平勝宝元年	749	2月22日	続日本紀	陸奥国にて金が産出。
		7月02日	続日本紀	聖武天皇の譲位により孝謙天皇(称徳天皇)が即位。
				藤原仲麻呂、大納言就任。
		8月10日	続日本紀	藤原仲麻呂、紫微令も兼ねる。
		11月01日	続日本紀	大神社女に外従五位下。大神田麻呂に従八位下を昇叙。二人に大神朝臣の姓を賜る。
		11月19日	続日本紀	八幡神の託宣が下り宇佐神宮から神輿で東大寺へ。
		12月18日	続日本紀	八幡神が入京。
		12月27日	続日本紀	女禰宜の大神社女が孝謙天皇(称徳天皇)と同じ紫色の輿に乗り、東大寺を拝する。 大神社女に従四位下。大神田麻呂に外従五位を昇叙。
天平勝宝2年	750	2月29日	続日本紀	東大寺大仏建立の功により八幡大神に一品、比咩神に二品の神階を奉る。 1400戸(八幡800戸・比売600戸)の神封。140町の位田も併せて奉る。

天平勝宝4年	752	4月09日	続日本紀	大仏開眼会を挙行。孝謙天皇が行幸。孝謙天皇、藤原仲麻呂邸の田村邸を御在所とする。
天平勝宝6年	754	11月24日	続日本紀	大神田麻呂と大神杜女が、薬師寺の行信と共謀した厭魅事件発生。
		11月27日	続日本紀	大神田麻呂は種子島に、大神杜女は日向国に配流。大神氏一族は宇佐宮から退去。
天平勝宝7年	755	2月15日	御託宣集	神託により、八幡大神へ奉った800戸の神封を返還。比売大神の600戸は沙汰待ち。
		3月11日	御託宣集	神託により、八幡大神へ奉った神封を返還を再確認。比売大神の600戸は留める。
		—	御託宣集	国司殿にて杜女と田麻呂の穢有り。八幡神、宇和嶺に移り坐す。
		—	御託宣集	辛嶋勝久須売が女禰宜となる。
天平勝宝8年	756	4月29日	続日本紀	聖武天皇、重篤になる中、宇佐宮に日下部宿禰古麻呂を遣わし幣帛を奉る。 以降9年間、藤原仲麻呂が斬首されるまで国史に宇佐宮(八幡神)の記載なし。
		5月02日	続日本紀	聖武太上天皇崩御。
天平勝宝9年	757	7月04日	続日本紀	橘奈良麻呂の乱が露見。藤原仲麻呂が最高権力者となる。 橘奈良麻呂を始め、道祖王、右大臣の藤原豊成らが逮捕され、獄死もしくは左遷。
天平宝治2年	758	8月01日	続日本紀	孝謙天皇、淳仁天皇へ譲位して孝謙上皇となる。
		8月25日	続日本紀	藤原仲麻呂により官職の唐風改称の実施。
天平宝治4年	760	6月07日	続日本紀	藤原仲麻呂の後ろ盾となっていた光明皇太后が崩御。
天平宝治5年	761	—	—	孝謙上皇が病を看病したのを機に道鏡が寵愛を受けるようになる。
天平宝字6年	762	6月3日	続日本紀	孝謙上皇が「今の帝は常の祀りと小事を行え、国家の大事と賞罰は朕が行う」と宣告。
天平宝字7年	763	—	御託宣集	厭魅事件の処分の後、八幡神が宇和嶺に去った9年間、辛嶋勝久須売へ託宣無く解任。
		—	御託宣集	辛嶋勝志奈布女が禰宜に着任。

天平宝字7年	763	—	御託宣集	押領使の宇佐公池守を宮司に願うとの託宣あり。
		—	御託宣集	改めて託宣。配流中の大神田麻呂を宮司にするよう、その帰還を待つよう託宣。
天平宝字8年	764	9月11日	続日本紀	藤原仲麻呂の乱発生。
		9月14日	続日本紀	橘奈良麻呂の乱で左遷されていた藤原豊成が復位。
		9月18日	続日本紀	朝敵となった藤原仲麻呂が斬首される。
		9月20日	続日本紀	道鏡が大臣禪師となる。
		10月09日	続日本紀	淳仁天皇の廃位により称徳天皇(孝謙天皇)が重祚。
		10月14日	続日本紀	廃位された淳仁天皇、淡路国に流される。
天平神護元年	765	3月22日	御託宣集	宇和から浄き処に移り朝廷を護らんと託宣。
		10月08日	御託宣集	八幡神が奈多を經由して御帰住。往来の際に訪れた地を臨む行幸会を行うよう神託。
		10月22日	続日本紀	淡路公(淳仁天皇)逃亡を図るが捕まり、翌日に薨去。
天平神護2年	766	6月22日	御託宣集	藤原仲麻呂を逆賊と断ずる託宣。
		10月02日	続日本紀	藤原仲麻呂政権が倒れた後、厭魅事件で流刑にされていた大神田麻呂と大神杜女が復権。
		10月20日	続日本紀	道鏡、法王位を授かる。
		11月08日	御託宣集	大神杜女が託宣を偽る。
		11月09日	御託宣集	7歳の童子、地上から7尺の高さに登り託宣。 大神杜女が託宣を偽り、穢れた地となったため、15年間大尾山に遷座せんと託宣。
神護景雲元年	767	—	御託宣集	宇佐公池守が大尾山の頂を切り払い大尾社を造営。御神体を鎮め奉る。

神護景雲2年	768	11月13日	続日本紀	弓削浄人が大宰府の長官である大宰帥の任を兼ねる。
神護景雲3年	769	—	続日本紀	大宰府管内諸社の祭祀を司る大宰主神の習宜阿曾麻呂から託宣があったと奏上。 託宣「道鏡を皇位につかせたならば天下は泰平である」(宝亀3年9月25日の地の文に記載)
		7月11日	御託宣集	1. 和氣清麻呂が宣命を読み上げようとした時、禰宜の辛嶋勝与曾女に託宣し、宣命を拒む。 2. 不審を抱いた和氣清麻呂が改めて辛嶋勝与曾女に宣命を宜ることを願い出る。 3. 辛嶋勝与曾女が顕現を願うと身の長三丈(約9m)の僧形の大神が出現。 4. 八幡大神は再び宣命を訊く事を拒む。 5. 和氣清麻呂「これ国家の大事なり。託宣は信じ難し。願はくは神異を示したまへ」。 6. 託宣「我が国は開闢以来、君臣定まれり...(略)...。天日嗣には必ず皇緒を立てよ」。
		—	—	都に戻った和氣清麻呂、道鏡の野心を退ける奏文を朝廷に献ずる。
		8月19日	続日本紀	和氣清麻呂、因幡員外介となり左遷。
		9月25日	続日本紀	和氣清麻呂、別部穢麻呂に改名させられ大隅国へ配流。
神護景雲4年 宝亀元年	770	8月04日	続日本紀	称徳天皇崩御(8月28日)。天武天皇2年(673)から続いた天武系の最後の天皇となる。
		8月21日	続日本紀	道鏡、下野国の薬師寺へ配流。
		8月22日	続日本紀	弓削浄人、土佐国へ配流。
		9月06日	続日本紀	和氣清麻呂、宮中に呼び戻される。
		10月01日	続日本紀	天智系の光仁天皇が即位。
宝亀2年	771	9月16日	続日本紀	和氣清麻呂、播磨守に任ぜられて官界に復帰する。
		—	御託宣集	和氣清麻呂、豊前守に任ぜられる。任官中に宇佐宮の刷新を進める。 ※但し『続日本紀』ではこの期間、豊前守は宝亀2年(771)11月19日から安倍朝臣御県。 宝亀5年(774)3月5日～宝亀6年(775)9月12日までは多治比真人豊浜と記載。

宝亀3年	772	4月07日	続日本紀	道鏡没。
宝亀4年	773	1月02日	御託宣集	和氣清麻呂、偽託宣・妖言の多いことを訴え、その実否の検証を申請。
		1月15日	御託宣集	和氣清麻呂、道鏡事件を始めとする偽神託・妖言を亀卜の占いを行う。
		1月18日	御託宣集	宇佐公池守、辛嶋勝与曾女の託宣を伝えただけで、偽託には関与していないと申し開き。
		1月19日	御託宣集	禰宜の辛嶋勝与曾女の託宣を虚偽と断罪し、宮司の宇佐公池守の解任を申請。 禰宜に大神少吉備咩、祝に辛嶋勝龍麿、大宮司に大神田麻呂は適任の卦を申請。
		2月07日	御託宣集	和氣清麻呂ら参宮。禰宜の辛嶋勝与曾女に託宣。和氣清麻呂の忠を誉め、綿1000屯を給う。 和氣清麻呂、改めて両者の解任を求める。
		2月09日	御託宣集	禰宜に辛嶋勝与曾女、忌子に大神少吉備咩・大神女斐売・辛嶋阿古女・辛嶋豊比女。 大宮司に大神田麻呂、少宮司に宇佐公池守が任に当たるよう託宣。
		2月25日	御託宣集	辛嶋勝与曾女に託宣。和氣清麻呂に御佩刀(帯刀)を下賜されるも、辞退し返上。
		3月14日	御託宣集	大宮司は大神氏。少宮司職は宇佐氏。禰宜・祝は辛嶋氏が就くよう託宣。
宝亀10年	779	4月20日	御託宣集	辛嶋勝与曾女に託宣。八幡大神、小椋山の菱形宮への遷座を命じる。
天応元年	781	4月03日	続日本紀	桓武天皇即位。
延暦元年	782	—	御託宣集	大尾社から小椋山(宇佐宮の現鎮座地)改修された菱形宮に遷座。